

# わる気と感動

学校だより 9号

平成30年

6月29日(金)

## 地区総合体育大会 陸上競技の部 昨年度に続き好成績！

☆共通男子・2年男子・2年女子・1年男子 総合優勝(6部門中4部門) ☆1年女子リレー 優勝  
☆8種目で一位獲得(昨年15) ☆リレー2種目と個人13人が県大会出場

陸上競技に全体の総合優勝があれば、今年も男子総合・女子総合・男女総合(実際にはありませんが)ともに、間違いなく南部中の優勝といえる好成績を収めました。昨年度より一位獲得の数は半減しましたが、みんなの力でこつこつと得点を獲得した結果です。まさに総合力の勝利と言えます。1年男子は身延中と同点で、一位の数も同じでしたが、二位の数で上回り優勝となりました。2年男子はわずか3点差の勝利、2年女子は17点差の勝利でした。来年の共通男女も優勝を狙える位置にいます。共通男子は2年連続の総合優勝でしたが連覇は増穂中以外では初の快挙となります。

開会式の前、円陣を組んでの全力校歌は、聞いていてとても気持ちが良かったですし、校歌を精一杯歌えるその姿が何より素晴らしいと思いました。『チーム南部中』として、全ての選手が全力で競技に臨めたと思いません。選手の頑張りはもちろんですが、6名の補助員や2名のマネージャーの支えと、競技が終わった選手たちの応援がこの成果を生んだのです。また入賞を逃しても多くの選手が自己ベストを更新しました。

大会委員長として、1本の優勝旗と4枚の盾を南部中の生徒に手渡せたこと、参加した南部中の生徒全員の全力で本気で取り組む姿を見られたことがとても嬉しく、最高の思いができたと感謝しています。

『なぜ南部中は、こんなに強いのか。』と他校の先生に聞かれました。エース級(関東大会3名出場)が何人もいた昨年と違い、一人一人があきらめずに最後まで粘った結果だと思えます。またそれを支えているのは、全校による気合いの入った、『全力応援』や、『全力校歌』であったり、毎日の部活動の取り組みであったり、普段の体育の授業に取り組む南部中生徒の姿勢ではないかと思えます。

田村監督のこぼしを借りると、選手全体に対しては『まだ全員が考えて動けていない。』また、3年生に『まだまだやれる。』『もっと下級生をリードできる。』『この結果をどう日常に繋げるかが大切だ。』と厳しいものでした。結果が良かったからよしではなく、目指すべき姿をしっかりとイメージして指導している姿こそ、南部中が強い・強くなれる理由かもしれません。

この『南部中の力』は、運動面だけではなく、文化部の活動、合唱活動、そして、学力向上に必ずつながっていくと信じています。

【審判長 四條 勉 先生より】 (本町 教育委員さんです。)

閉会式の態度がどの学校も集中してとても良かったです。特に南部中、身延中、早川中の三校は全員がしっかり顔を上げて、私の講評を聞いていました。素晴らしい態度でした。(嬉しいお言葉をいただきました。)

### <三位以内入賞者・県大会出場者>

1年生	砲丸投げ	草場 孜温 (一位)	齊藤 昂 (二位)		
	800m	小池 咲来 (三位)	4×100mR	女子 (一位)	男子 (二位)
2年生	800m	渡邊 秀喜 (二位)	佐野 琴妃 (二位)		
	100mH	柿島 佑海 (一位)	山本 晴菜 (二位)		
	110mH	稲葉 一星 (二位)	近藤 聖斗 (三位)		
	3000m	諏訪 颯斗 (二位)	渡邊 秀喜 (三位)		
	走幅跳	旗持 愛結 (二位)	走高跳	旗持 愛結 (一位)	
	砲丸投	望月 満風 (一位)	佐野 空人 (二位)		

3年生	200m	旗持 太貴 (二位)	800m	河内 健晟 (三位)
	1500m	岡村 美歩 (三位)		
	3000m	河内 健晟 (一位)	望月 侑 (三位)	
	100mH	遠藤 沙登 (二位)	110mH	柴田 晃助 (一位)
	走高跳	遠藤 沙登 (一位)	望月 侑 (三位)	



### <県総合体育大会 日程> 目指せ！関東・全国

7月25日(水) 男女バレーボール 男子ソフトテニス 軟式野球  
 26日(木) 男子ソフトテニス 軟式野球  
 27日(金) 男女バレーボール 水泳  
 28日(土) 陸上競技 軟式野球 水泳  
 29日(日) 陸上競技 軟式野球 30日(月) 空手

県総体は平日開催が多いのですが、3年生にとって最後の県大会ですので、できるだけご都合をつけて応援をよろしくお願いします。また、今年は軟式野球と水泳が本県で実施されます。南部中の選手の出場を期待しています。

## = 6月23日 沖縄「慰霊の日」 = \*四年連続の掲載です。

陸上競技大会の二日前、6月23日は、沖縄県民にとっては忘れられない特別な一日「慰霊の日」でした。73年前の沖縄戦は、一般住民を巻き込んだ唯一の地上戦が展開された戦いでした。一般住民を巻き込み、20万あまりの尊い命と財産や、沖縄の文化財、自然がことごとく奪われました。一般住民は9万4000人あまりが犠牲となりました。女子学生で編成された『ひめゆり学徒隊』(看護補助要員)は、220名中136名が亡くなるという悲惨な状況でした。追い詰められた住民の集団自決、日本軍による住民虐殺など凄惨な戦いだったそうです。そして総司令官が自決したこの日23日を、組織的戦闘が終結した節目とし沖縄慰霊の日と制定したのです。

その後、長崎・広島に原爆が投下され、大勢の犠牲者を出し日本は降伏しました。それから1972年に日本に返還されるまでの28年間、沖縄は米軍の主要な基地・アメリカの占領地として支配されてきたのです。

戦後73年が経過した今、米軍基地の辺野古への移設問題など、今でも沖縄県に大きな負担をかけている事を、私たちは忘れてはいけないと思います。

南部中ホームページも是非ご覧ください。

<http://www.nanbu-chu.ed.jp>

